



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER 2008-2009



ガバナーメッセージ

“決議23-34は不滅”

国際ロータリー第2710地区
ガバナー

諏訪 昭 登

ロータリー理解推進月間によせて

明けましてお目出度うございます。

会長、幹事そして会員の皆様には、本年もロータリーのため、同志として心一つに、引き続きご尽力下さるようお願いいたします。特にロータリー永遠のテーマである会員増強について、なお一層のご努力をD. K. リーRI会長と共に衷心より願います。

皆様の友愛で支えられた公式訪問では、当初から“役に立つこと”をスローガンとして、各クラブで会長、幹事さんと共同作業で活動計画書などのサビ落しを行い、会長エレクトにも任意同席を願って指導性の継続を期待致しました。

例会卓話はロータリーの基本と原点論を私のロータリー観と共に熱く語りました。特に90分のフォーラムは、毎日、時間が足りない状況まで皆様に語りかけることが出来たことに感激しております。ご友情に厚く御礼すると共に、残る年度にも格別のご協力をお願い致します。

さてロータリーは、1905年に社交クラブとしてポール・ハリスによって創立され、その後の宗教倫理主義と実業倫理主義、また奉仕の実践についての個人性と団体性、これら様々なせめぎ合いを経験しました。就中、1912年頃からの激しい対

立を見事に解決したのはセントルイス大会の決議34号、通称23-34でした。

1923年のこの決議はテネシー州ナッシュビルRCのウィル・メイニア・JRが起草したもので、原題は“綱領に基づく諸活動に対するロータリーの方針”です。

1927年の四大奉仕部門の確定により“社会奉仕に関する1923年の声明”として現在の手続要覧に載っており、綱領と表裏一体を成すロータリーの理念と実践原則の大原典であります。

特に日本のロータリーは23-34を信奉し、これを支柱として発展して来たと言えるでしょう。内容は手続要覧P. 84をご覧下さるとして、略記すると次のようになると思います。

・23-34の内容

- 1) ロータリーの奉仕理念
- 2) ロータリークラブの役割
- 3) 国際ロータリーの役割
- 4) 実践哲学としてのロータリー
- 5) ロータリークラブの自治権とRI
- 6) 社会奉仕実践の諸指針

第1項目は“不易”の部分として決して変えてはならない部分です。他の項目特に第6項目については時代変化などを勘案しながら、慎重に小修正



の型で改められる“流行”の部分と言えるでしょう。
ところで23-34には受難の歴史があります。

◎23-34の受難の歴史

- ・1984年版手続要覧から突然削除。日本人理事らによる復活活動によって復活へ。
- ・1986年版に復活。
- ・1988年規定審議会へ撤廃提案あり。否決。
- ・1989年 “He Profits Most…” が第二標語となる。
- ・1992年規定審議会へ撤廃提案があったが、新声明92-286の採決を条件として存続。
- ・2001年 R I 理事会が第二標語を使用停止とし23-34から削除。
- ・2004年第二標語復活の採決があったが23-34に入っていない手続要覧が発行された。
- ・2007年版手続要覧に第二標語が復活した。

以上の復活活動は全て主として日本人理事の方々によるものです。

◎最近の大きな受難

- ・2007年11月 R I 理事会へ提出された決議案。
 - 1) 23-34はもはや社会奉仕の理念及び R I とそのクラブの原理を正確に記すものではない。
 - 2) 今後の「ロータリー章典」と「手続要覧」の改訂版から削除するよう事務総長に要請する。

この提出者はビル・サージェント元 R I 副会長とエド・フタ事務総長であった。

☆事務総長が加っているのは異常事態です。

これに対して渡辺 R I 理事は23-34が日本ロータ

リーの精神的支柱たることを強調して撤回要請した結果「1) はそのまま 2) は今後の章典、要覧に歴史的文書を保存する新しい形式を提案し2008年1月理事会で報告するよう事務総長に要請する」となった。

- ・2008年初頭から渡辺、小沢両理事などの懸命なロビーイング等で23-34全文を要覧に残すよう強調した。
- ・2008年1月理事会（決定）1) 今後の「要覧」改訂版に23-34を歴史的文書として保存する。2) 23-34が歴史的価値ありとして「要覧」に記載されていることを言及する文を「章典」に含める。この間「章典」6月版からは23-34が完全に削除され、2) は11月版になって実行されたことを伝えておきます。

11月に行われたロータリー研究会のオープンフォーラムで23-34について熱い意見交換がありましたが、D. K. リー R I 会長は23-34は6月の理事会で章典から削除されることとなったが、手続要覧へは現実のものとして確実に残るとの力強い発言をされました。親日家で高名なビチャイ・ラタクル元 R I 会長や小沢理事、渡辺前理事からも同様な発言があり、ひとまず胸をなでおろした次第です。23-34の精神は不滅です。

“草木が緑なす限り、川が流れる限り、ロータリーはその理想、奉仕の理想を崇拜し続けるでしょう”

P・ハリス